

<全体分析>

試験時間 120分

解答形式

〔1〕問5,〔2〕問4・問5,〔3〕問5が客観式。それ以外はすべて記述式。

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

〔1〕～〔3〕が長文総合問題,〔4〕・〔5〕が自由英作文,という構成。〔5〕は3年続いた「図表を説明させるもの」から「個人的な体験や感想を書かせるもの」へと変わった。英文読解力と英語表現力を記述式中心で問うという本格的な出題傾向に変化はない。

その他トピックス

長文問題では,例年問われていた字数指定のある説明問題が出題されなかった。

長文問題の配点が120点から130点に増加,英作文の配点が80点から70点に減少。長文と作文の配点比率が変化するのは3年ぶり。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔1〕	読解総合 (43点)	地球の支配者である植物	問3は該当箇所が広範囲にわたっておりまとめるのに苦労する。  636 words	標準
〔2〕	読解総合 (40点)	忙しさを重んじる企業文化	問1と問2は自然な日本語に訳出することがポイント。  450 words	標準
〔3〕	読解総合 (47点)	火星の砂嵐に見る将来の地球	問4は設問の意図を理解し必要な情報をまとめるのが難しい。  501 words	標準
〔4〕	英作文 (40点)	日本の人口減少に伴うプラスの影響	日本の人口減少がもたらす日本社会への好影響について,2つの変化を記述する。	標準
〔5〕	英作文 (30点)	大学卒業後の就職先	日本の大企業A社と,カリフォルニアを拠点とするスタートアップ企業B社のうち一方を選び,その理由を2つ記述する。	標準

注:区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で,当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・本番の試験では短時間で大量の問題を解かなければならない。そのためには日頃から時間を意識して学習することが大切。秋以降は制限時間を設定して問題演習に取り組み,少しでも処理速度をアップするという意識を持つこと。
- ・英語を「読む」「書く」際には語句の知識がものを言う。豊富な語彙力をつけるべく,単語や熟語の学習を怠ってはいけない。